

支援プログラム

事業所名		のため・べっが 放課後等デイサービス (単位2, 単位3, 単位5)		作成日	2024年 10月 25日
事業所理念		1. 子どもの自尊感情・主体性を育てイキイキと生きられる「思考」を育む 1. 子どもの持つ可能性を芽吹き、夢や目標に向かって人生を歩む力を育む 1. 「人を想う」豊かな心を育て、感謝と感動ある人生を送ることができる人の育成を目指す 1. 子どもの心の拠り所となる家族が、健やかに暮らすことができる支援を提供する 1. 「愛・信頼・責任」を根幹に、社会に必要とされる事業風土をつくる			
支援方針		1. 日々の療育に運動(体操)を取り入れ、「やってみよう!」「出来た!」の経験を積み重ね心身の発達を促せる運動プログラムを提供します。 1. 一人ひとりの特性から長所を見出し、伸ばす支援を実践します。 1. 様々な体験から、夢や目標が持てる支援を提供します。 1. 「愛され大切にされている」と感じられる関わりを実践します。 1. 人と関わることの喜びや生きる楽しさを「遊び」や「スポーツ」を通して育みます。 1. ペアレントトレーニングや保護者会の開催、また保護者の方にも運動を通してリフレッシュ笑顔で過ごせるサービスを提供します。 1. 最高の事業所となるべく、スタッフが自信を持ち笑顔で支援に当たることのできる環境を作ります。			
営業時間		9時 30分から 18時 30分まで	送迎実施の有無		あり (送迎範囲規定あり)
活動内容		支援内容		5領域との関連性	
本人支援	自由遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)に留意し、安心できる環境作りを行う。また、肯定的な関わりを大切にするとともに受容的な環境作りを心がける。 ・様々な玩具・運動器具を使って、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、これらの感覚から情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援を行う。 ・遊び等を通じて人の動きを模倣したり、コミュニケーションを図ることにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ・協同遊びを通じて集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるように支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。 ・遊びを通じて他児との関わりから人に対する興味関心を広げ、社会的相互作用の習得や集団のエンゲージメントの充実感を図る機会を提供する。 ・遊びの中の様々な動き(跳が、投げる・走る・蹴る等)を通して距離感の把握や方向感覚、危険察知能力、力加減やタイミングの調整など、様々な身体的能力の向上に繋げる。 ・遊びの中で、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるように支援する。☑ ・挑戦や失敗を含め体験したことや、興味を持ったことに取り組むことで、新たにやってみようと感じる機会につなげ、多様な体験の機会を作っていく。☑ 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康と生活 ・運動と感覚 ・認知と行動 ・人間関係と社会性 ・言語とコミュニケーション 	
	はじまりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報/聴覚情報から得た情報を適切に処理できるよう支援する。 ・過去に取得した情報と照らし、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができる機会を提供する。 ・スケジュールの確認から各タスクにどれくらいの時間がかかるかを見積もる力やタスクの全体像を把握する力、複数のタスクの中で何を優先するべきかを判断し、順番を決める能力などを高められるよう支援する。 ・お当番という役割から具体的な事柄や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。 ・集団に興味関心を持ち参加したいという意欲を引き出すことで、自発的に集団活動に参加できるように支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知と行動 ・人間関係と社会性 ・言語とコミュニケーション 	
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本プログラムとして器械体操(マット運動・跳び箱・鉄棒)をベースに一連の動きを分解したサーキットを取り組むことで、身体操作を習得していく。 ・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を粗大運動を通じて培う。 ・保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、体操器具や音声情報を使いながら支援を行う。 ・感覚や認知の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する調整ができるよう支援する。 ・自分のできることや苦手なことなどに目を向け、自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや行動を調整し、状況に応じた行動ができるように支援する。 ・目標を達成する過程で新しいスキルや知識を習得し、自己成長を実感できるよう支援するとともに、自身を多様な角度から探究し、論理的・客観的に理解しながら次の目標に向けての意欲を高められるよう支援する。 ※運動機能向上については専門的支援実施計画を作成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・健康と生活 ・運動と感覚 ・認知と行動 	
	おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食感/触感を味わう/触れることにより、新たな感覚刺激を習得する機会をつくる。 ・物理的な空間や雰囲気、言語を共有する環境を構築することで、他者への関心と理解を深め、協調意識を育む機会を提供する。 ・準備等の手順を覚え、自立して取り組む力を身につけるとともに、周囲の状況を観察し気づきや協力する姿勢を養う支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康と生活 ・認知と行動 ・人間関係と社会性 	
	べっが選手権(ゲームタイム)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての活動を通じて他者の意見を理解し尊重することで、円滑なコミュニケーションを育むとともに、相手の立場に立つて考える機会を作ることで、相手に対する深い理解と信頼関係を築ける支援を行う。 ・他者を応援することで、協調スキルを向上し社会的な繋がりを強化していくとともに、自分が他人にとって価値のある存在であると実感できる機会を作る。 ・多様なルールに触れることで認知力や適応力を高め、行動へ移行する力を伸ばす。また、戦略を考えることで、問題解決能力・柔軟な思考力を向上できるように支援する。 ・ゲームの結果を通じて勝ち負けに対する順応など、様々な情動調整能力を高める。 ・様々なゲームに取り組むことで、感覚の偏りに対する調整力や身体機能の向上を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・言語とコミュニケーション ・認知と行動 ・運動と感覚 ・人間関係と社会性 	
	終わりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報/聴覚情報から得た情報を適切に処理できるよう支援する。 ・過去に取得した情報と照らし、環境や状況を把握・理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることができる機会を提供する。 ・一日の振り返りを行うことで自己評価になれ、成長点や達成を実感することで自己効力感を高めていく。また、出来事を思い出すことで、記憶の再生能力を鍛え、情報の保持ができるよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知と行動 ・人間関係と社会性 ・言語とコミュニケーション 	
	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォームドコンセントを徹底し、こども・保護者との信頼感を育み、家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 ・家族の子育てに関する困りごとや悩みについて相談援助を行う。 ・こどもの発達上のニーズについての気づきの促しや発達状況や特性の理解に向けた相談援助を行うとともに、アフターケアを行う。 ・保護者同士の交流の機会をペアレントトレーニングや講座の開催を通じて提供する。 		移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望に応じて、移行先の学校と支援方針・支援内容、こどもの様子・保護者の意向・支援方法について情報共有し、移行後も継続した支援を行えるよう配慮する。 ・進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助を行う。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望に応じて、こどもの通園先や通う予定の学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、児童発達支援計画の共有・会議の開催を行う。 ・こどもを担当する保健師や、こどもが通う医療機関等との情報連携を行う。 ・こどもが利用する障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携を図る。 ・虐待が疑われる場合には、児童相談所やこども家庭センターとの情報連携を行う。 ・保護者からの要望に応じて、個別のケース検討のための会議の開催 		職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立て、所内研修を随時行う。(職員の経験年数に合わせた適切な研修内容の実践) ・職員が自身のキャリアパスについて理解することで、定期的な自己評価とフィードバックを行い、自己改善や意欲向上に努める。 ・職員それぞれにニーズに合った外部研修への参加。 	
主な行事等	【スポーツイベント】：野球・サッカー・ドッジボール・陸上・コーディネーショントレーニング・エアートランポリン・ポートボール・バスケットボール・バドミントン・バレーボール等開催 【季節行事】：お正月遊び!・冬の運動会!・べっが雪まつり・紅白ゲーム大会・雪上球技大会・スキーに挑戦・自転車教室・節分!べっがおに退治クエスト・べっがキャンプ・夏祭り・水祭り・運動会・ハロウィンパーティ・クリスマスパーティー等開催				